

<海洋生物飼育日誌>

2023年6月16日9時

天気 雨

水温 17.7℃

トリチウム濃度 1,300 ベクレル/L の海水で飼育しているヒラメの可食部に含まれるトリチウム量は 800 ベクレルとなり、食品と同じ表記にすると 1,067 ベクレル/kg (wet) となりました。あわせて低濃度で飼育中のヒラメについても計算しました。(山)

<次回は6月19日です>

飼育試験中のヒラメの可食部のトリチウムの総量はFWTとOBTの和です。  
 $750[\text{Bq}] + 50[\text{Bq}] = 800[\text{Bq}]$

可食部の生の重量は750[g](wet)より  
通常の高産物の放射能と同様の考え方で放射エネルギーを算出すると  
 $800[\text{Bq}] \div 0.750[\text{kg}] = 1,067[\text{Bq}/\text{kg}]$  (wet、可食部)

飼育試験ではトリチウム濃度約35Bq/Lの海水でも  
ヒラメの飼育を行っています。  
仮に39Bq/L(1,300の3/100)と仮定して同様の計算をすると

可食部のトリチウムの総量: 24[Bq]  
可食部1kgあたりのトリチウム量: 32[Bq/kg] (wet、可食部)

アワビの死亡および調査引き上げ数

	死亡		調査引き上げ	
	6/9-6/15 (数)	生残率(%、累積)	6/9-6/15 (数)	累積(数)
通常海水①	2	74.2	0	0
通常海水②	0	71.0	0	0
処理水添加①	1	68.2	0	0
処理水添加②	1	61.1	0	1

\*集計に正確を期すため前週金曜～木曜日で死亡および調査引き上げ数を集計しています  
\*ヒラメの死亡はありませんでした

